

オープンキャンパスアンケートにお答えします。

## 「先生や在校生に聞きたいことはありますか？」

Q

自分の作品を完成させ、人に評価される気持ちは？ すごい自信作でも、人の評価って思っている以上に厳しい時もありますよね。そんな時、酷評の時の気持ちの切り替え方、モチベーションの保ち方知りたいです。

A

自分も入学してすぐのころは講評が少し怖く感じていましたし、個別に評価されるので今でも少しドキドキします。ですが、講評で全てを頭ごなしに否定されることは基本的に無いです。講評は「こうすればよりよくなるのではないか」というアドバイス・提案なので、「次の制作はどうするか」を自分なりに考えると気持ちも切り替わるし、結果的にモチベーションの維持にもつながるんじゃないかなと思います。

(回答者 マンガ専攻 3年生)

A

自分が成長できる良い機会だと捉えて改善する。ただ、ここは譲れない!という部分は貫き通す!

(回答者 総合造形専攻 4年生)

A

酷評された時はすぐに描き直したりしないで一旦他のことしてます。僕の場合ですが、こういう時は大体気持ちが落ち込んでるので、そういう時本当に作品に出てしまうので一旦離れるのがオススメです。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

**A**

二度と同じことは言わせないぞという気持ちで次の絵に挑みます。言われなかった時のカタルシスたるや最高です。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

**A**

評価される時はどんな場合でも緊張しますね。講評の時自分が思っていた評価をしてもらえない時は多々あります。でも考え方や好みは人それぞれなので自分の作品に対してよく思わない人絶対にいます。そこで酷評をされて落ち込める時間はかなりもったいないと思います。一喜一憂せず、「そういった見え方もあるのか」という参考程度に考え、次につなげられるかが大事です。逆にそこで好評ばかりだった場合何をもらえるでしょうか。私は酷評だった場合のほうが新しい自分を見つけるチャンス!と思って課題をこなすようにしています。一番は自分のしたいことをして作りたいものを作るのが最優先です。私自身大学に入る前は先生の言葉一つで喜一憂するタイプでしたので、この考えは文星大学で様々な課題をこなして先生方と対話して得られたものだと思います。落ち込むことはありますが背伸びしすぎず、のびのびと表現してみてください!

(回答者 デザイン専攻 2年生)

**A**

自分とは違う視点を知れるのはありがたい。でもつらいものはつらい。

(回答者 総合造形専攻 4年生)

# Q

日々を楽しく過ごすコツはありますか？

# A

大学での生活を楽しむこと！友達に恵まれているのもそうですが自由度が高いのもありますね。先生方はとても相談しやすいです。学校行事は一昨年くらいからかなり復活したので楽しいですよ！サークルも入って自分のやりたいことを楽しめています。

(回答者 デザイン専攻 2年生)

# A

作品にすごく一生懸命な先生や友人と一緒に活動しているとき。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

# A

日々、課題に向き合うことが楽しい！自分の所属するゼミでは課題を自分自身で決めるので、スケジュール設定から研究発表用の資料作成まで一通りやる大変さもありますが、個人的に気になっていることや新しくやってみたいことに課題として取り組めるのでとても楽しいです。また学校祭では模擬店を出すことができるのですが、自分の作品を手にとってもらう経験ができるのもとてもいいなと思っています。

(回答者 マンガ専攻 3年生)

# A

適度に休んだり、息抜きに別のことをしたりできる余裕を持つことが一番だと思います。課題制作で詰まったり困ったりしたときは積極的に先生や友人に相談するなどして、あまりひとりで思い悩まないことも大切だと思います。

(回答者 マンガ専攻 3年生)

A

大きな作品を制作したり、時間の使い方を考えるのが楽しい。

(回答者 総合造形専攻 4年生)

A

モチベーションを持って、それに向かってがんばること。何事にも挑戦すること、学ぶことをやめないこと!

(回答者 総合造形専攻 4年生)

A

音楽を聴くことと、定期的な散歩です。散歩は気分転換にもなりますし、いろんな情報が整理されるのでふとした時にアイデアが思いついたりします。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

A

実技は背伸びしすぎず自分がやりたいことをやることです。あと先生たちや先輩たちと関わるといういろんな経験をできたり知れたりするので関りを大事にしてください。これらを大切にするとより楽しめると思います。

(回答者 デザイン専攻 2年生)

# Q

絵を描く時に、どのようなことを意識して描いていますか？

# A

絵を描く時に大切にしていることは2つあります。

1つ目は「自分の想いや考え方」です。2つ目は「図像化するための取材」です。今、私が興味を持っていることは地球環境問題です。環境のことを絵にするために、霊獣に着目しています。霊獣はかつて自然が豊かだった時代にいたとされる架空の動物たちです。例えば獅子を描くために、江戸時代の書物を調べてその特徴を学んだり、獅子の原型のライオンをスケッチして、足の構造や、爪の形などを観察します。これが取材です。目で観て、五感で感じて、手で描いてみると、そのものの本質を理解することができると思っています。

(回答者 総合造形専攻 日本画分野 中村先生)

# A

最近は特に色味を意識するようにしています。感覚で色を選ぶとまとまりが無くなりやすいので、カラーチャート等を参考にしながら全体の統一感やアクセントカラーの使いどころなどを考えて描くことを意識しています。

(回答者 マンガ専攻 3年生)

# A

見てる人に伝わるように心がけてます。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

# A

客観的に見て可愛いと感じてもらえる絵になっているか(自分の悪癖を消せているか)です。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

A

私が描きたいものを描いています。自分の性癖は大切に。うまく描こうというのはもちろんですが、誰かと比べずに描いていたほうが断然楽しいです。自分のイラストは自分が一番愛してあげてください。

(回答者 デザイン専攻 2年生)

A

調べられるものは調べておく。日々のなかで面白いことや発見したことはできるだけ書き留めて、アイデアの引き出しをふやしていくことが大切だと思っています。

(回答者 総合造形専攻 4年生)

A

外見からも内面が伝わるように、熱意や純粋さや優しさなど、目に見えない部分が見えるように、見る人に愛されるように心がけています。

(回答者 マンガ専攻 仔鹿先生)

A

絵の基本はドゥローイング（スケッチ、デッサン等）です。常日頃スケッチブックを携え何かしら描くようところがけています。そして対象物（風景、モチーフなど）をしっかりと観察することです。

(回答者 デザイン専攻 佐々木先生)

# Q

入学前にしたかったことが今できていますか？

# A

できてると思います！高校の時の実技試験の練習（鉛筆デッサンや平面構成など）と似たことばかりすると思っていたのですがあまりなかったです。一年生はすべての専攻の人がいろんな実技を経験ができます。やったことのないものばかりでとても楽しいです。そのあと二年生になると専攻別になるのでデザイン専攻以外は分かりませんが、楽しい授業が盛りだくさんですよ！授業以外に自分でやりたいことがあったら、受講したものであれば担当の先生に相談して施設を使えたりアドバイスをもらえたりも可能なのでいろいろできると思います。

（回答者 デザイン専攻 3年生）

# A

自分は入学前のビジョンが曖昧だったため質問の内容とは少しずれてしまうかもしれないのですが、この大学でマンガ・イラストに限らず様々な経験を積むうちに今自分がすべきこと、今後どうしていきたいかなどはかなりはっきりしてきたなと思います。また、入学前から「もっと作品を公表していきたい」という漠然とした思いはありましたが、こちらに関してはイベントへの参加やSNSの利用を通して今できているなと思います。

（回答者 マンガ専攻 3年生）

# A

入学して半年は基礎ばかりやるし自分の望んだようなこととは少しずれたことをさせられているなと感じましたが、今では自由にやりたかったことができています。最初だけ辛抱です。

（回答者 マンガ専攻 2年生）

# A

できています！もっとガヤガヤしていると思ったけど、大人しいひとが多いです。

（回答者 総合造形専攻 4年生）

A

できてます。漫画について基礎から教えてくれ、すごくわかりやすいです。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

Q

ヘルメスの全身像をいつか描きたいのですがこの大学に来たら描けますか？

A

全専攻の1年生が履修する基礎デッサンの授業で描きます！

全身像をよく観察し、描写することで人体の骨格や筋肉の構造を学びます。

(回答者総合造形専攻 洋画分野 多田先生)

Q

バイトしていますか？

A

長期のバイトはしていませんが、夏、冬、春などの長期休暇に短期のバイトをしています。教科書販売や神社の正月助勤、オープンキャンパススタッフ等内容は様々で、給与もそれぞれ異なります。地域のバイトを学校側が紹介してくれることもあるので、掲示板やお知らせを見て随時応募しています。

(回答者 マンガ専攻 3年生)

A

前までは土日にコンビニのバイトを5時間ずつしていました。今は絵の有償依頼をしています。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

A

アパレル関係と美術予備校の講師を掛けもちで週3日で5~6万円くらい。

(回答者 総合造形専攻 4年生)

A

しています。私は飲食店で、普段は週3か週4ですね。テストやレポート期間は週一か、もしくはなしにしています。バイト代は、基本6~8万程度です。

(回答者 デザイン専攻 2年生)

Q

どのようなことを重視して課題に取り組んでいますか？

A

自分が納得できるまで取り組む。途中であきらめずに長い時間楽しめるかどうか。

(回答者 総合造形専攻 4年生)

A

前回の課題で批評されたところを直すようにして、課題内容に添いながらどれだけ自分の趣味を入れられるかを重視しています。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

A

「前回の講評で指摘されたこと」は、次の課題制作時に意識的に改善に努めるようにしています。大学は様々な視点から作品講評が受けられ、他の学生の作品からも学べる貴重な場だと思っているので、課題においては漠然とやらないことが大切だと思います。あと締め切りの順守はとても重要です

(回答者 マンガ専攻 3年生)

A

前回講評で指摘された箇所を意識して直しつつ取り組んでいます。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

A

締め切りは重要です。実技の方の課題は小さなことでも挑戦してみることで、案が浮かばなかったら友達に相談したりいろんな作品を見てみたり。参考にできるものがあればとことん探して学び、ノートに書きだします。

(回答者 デザイン専攻 2年生)

Q

入試までにしておいた方がいいことはありますか？

A

自分は実技、特にデッサンに重きを置いて練習をしていました。また入試の種類によっては面接もあるかと思いますが、自分の言葉で伝えられるように準備しておくのが良いと思います。

(回答者 マンガ専攻 3年生)

A

自作品を捨てないこと。落書きでも何でもいいので「自分は絵を描くことが好きである」と示せる資料を用意しておく。

(回答者 マンガ専攻 3年生)

A

一般試験には鉛筆デッサンがあるのでその練習はしておいたほうが良いです。文星のインスタには私たちが行っている授業が結構載っているので見てみてください!

(回答者 デザイン専攻 2年生)

A

とにかくデッサン。あとはこれからやってみたいことを考えること。

(回答者 総合造形専攻 4年生)

A

フィギュアデッサンを原稿用紙に鉛筆で描く練習をした方がいいです。絶対原稿用紙にやってください。鉛筆の乗りが全然変わってきます。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

Q

文星芸大の一番良いところは何ですか?

A

文星芸大の一番いいところは、学生が少人数なので教員と学生の距離感が近いところです。ひとりひとりの個性を活かせるように日々のコミュニケーションを大切にしています。一人当たりの制作スペースが広いのも利点です。

(回答者総合造形専攻 立体分野 吉田先生)

A

のびのびと作業ができるところ。のどかな雰囲気です。居心地がいい。

(回答者 総合造形専攻 4年生)

A

一人一人、やりたいことやレベルに合わせて学べるところだと思います。少人数ゆえに可能なことかもしれません。  
(回答者 マンガ専攻 関本先生)

A

自分のペースで成長できるところです。また自分のしたいことが見つかる場所だと思います。人数が少人数なので先生との距離も近く、施設はかなり充実しているのでいろいろ挑戦できます。  
(回答者 デザイン専攻 2年生)

A

さまざまな才能と実績を備えた講師陣が密接に指導し、ものづくりの現場を実感でき、あなたの将来を開くことができます。

(回答者 デザイン専攻 デザイン分野 千葉先生)

A

マンガとイラストの人が混合しているので、自分とは違った視点の話が聞ける点。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

A

1年時に専攻関係なく全部の基礎科目を受けられることです。

(回答者 マンガ専攻 2年生)

A

整った設備や多様な経験をさせてくれるところなど、文星の良いところはたくさんありますが、自分が特に良いなと思うところは質問や意見のしやすい空気です。課題制作で詰まった時や技術的にわからないことがあった時など、気軽に先生に聞きに行けるのがとてもありがたいです。自分が入学したての頃は「何も案が思い浮かばなくて困っていて…」と相談したこともありました。些細な疑問でも快く聞いてくださる先生がほとんどなのでとても助かっています。

(回答者 マンガ専攻 3年生)

Q

水彩が上手に描けるコツなどがあれば教えていただきたいです。

A

正直言って上手にかけるコツというものはありません。ただひたすら水彩の特性に慣れ枚数かくことです。水彩で描く楽しさを発見できたら表現が広がっていきます。

(回答者 デザイン専攻 佐々木先生)

A

1年生の選択の授業で水彩があるのでそちらを受講すれば佐々木悟郎先生に直接教えていただけます。受講しなくても聞きに行けますよ。悟郎先生含め皆さん素晴らしい先生方ばかりなので文星芸大に入学していただければいろんなことが聞けます。

(回答者 デザイン専攻 2年生)

A

迷わず大胆に塗ること。あとは経験を積むこと。

(回答者 総合造形専攻 4年生)

Q

県外から入学した場合、学校周辺に寮やアパートはありますか？

A

本学では、寮をご用意していませんが、大学近隣に複数のアパートがあります。一人暮らしを希望される方に賃貸物件紹介業者をご案内しています。

(回答者 キャリア学生支援センター)

Q

遠くから通学している学生はいますか？

A

福島県、茨城県、群馬県、埼玉県など、栃木県隣県出身学生の中には自宅から通学している学生もいます。中には片道3時間程度かけて通学されている学生もいます。

(回答者 キャリア学生支援センター)